

文京区一般廃棄物処理基本計画（モノ・プラン文京）中間年度見直し（素案）  
 区民説明会の意見及び意見に対する区の考え方

| No. | 項目    | 意見（要旨）   | 区の考え方  |
|-----|-------|--|--|
| 1   | 進捗の管理 | 基本指標 1 は総排出量だけでなく、その中のごみ量と資源量の内訳についても数値を見せたほうが、2R とリサイクルの両方の推進状況がわかりやすくなる。       | 中間年度見直し後、リサイクル清掃審議会で進捗状況の評価を行う際には、ご提案のように、総排出量だけでなくごみ量と資源量の両方の数値が見える形で推移を追っていきたいと考えております。  |
| 2   | 進捗の管理 | 生ごみの量など、区民のリデュース活動がダイレクトに反映される指標があったほうがよい。                                       | 組成分析調査を毎年度は行っていないため、指標として生ごみの量の経年変化を追うのは難しい状況です。基本指標 1 の区民 1 人 1 日当たりの総排出量の推移を把握することで、全体としてのリデュース活動の進捗状況を知ることができると考えます。  |
| 3   | 進捗の管理 | 3R のうち、2R の進捗を把握できるような定量指標を特定すべき。  | 基本指標 1 の区民 1 人 1 日当たりの総排出量は、リデュース・リユースの推進により減少することから、2R に係る定量指標として捉えることができます。  |
| 4   | 進捗の管理 | 高齢化が生ごみの減量に与える影響を分析した上で、2R の進捗について PDCA を回さないと、適切な評価・改善ができない。                    | 組成分析では、排出原単位調査のように排出者の特定ができないため、高齢化が生ごみの減量に与える影響を正確には捉えられていませんが、高齢化が進むにつれて自宅での調理が減り、生ごみの量が減少している可能性は否定できません。<br>しかしながら、ごみ量は様々な要因の影響を複雑に受けている数値であるため、原因を細かく分けて考えることは難しいと思われます。<br>区では最終的な数値目標を見据えて基本指標の進捗状況を把握しつつ、計画の進捗管理を行ってまいります。 |
| 5   | 情報の提供 | 分別の冊子「ごみと資源の分け方・出し方」は細かく書いてほしい。分類の例示よりも理由を示してあるとよい。                              | 区では区民に幅広く正しく分別していただけるよう、必要十分な情報量として冊子を作成しております。より細かい分類に関してはホームページを参照していただければと思います。なお、細かい分類が記載されているページの URL を冊子に記載し、周知に努めてまいります。  |
| 6   | 情報の提供 | 分類に困ることはよくある。ホームページは自分でアクセスしないと見られないし、冊子はライターの例など不親切。厳密な整合性がないと区民は困る。ツールの見直しが必要。 | また、回収されたものがリサイクルされる過程を紹介するなど、分類の理由を分かりやすく伝える方策を検討してまいります。  |

| No. | 項目          | 意見・要望要旨  | 区の考え方   |
|-----|-------------|--|---|
| 7   | 情報の提供       | どんな人が不適切な分別をするのか分かっているのであれば、それをターゲットに啓発を行うのが効率的。分別が面倒なのか、知らないから分別しないのかを検証した方がよい。 | 26年度に実施した区民アンケートで、年代や居住年数の属性別に区民が日頃どのように資源を分別しているかについて調査を行いました。その結果、若年層ほど雑がみを可燃ごみに出しており、高齢者ほどびんを不燃ごみに出しているなど、属性によって差が見られたものもあります。<br>区では、まず正しい分別について知ってもらうことに主眼を置き、従来の広報媒体に加えて SNS 等も活用し、幅広い年代やライフスタイルの区民に対しての周知・啓発を行ってまいります。 |
| 8   | 情報の提供       | プラボトルを資源として集めることになったという変更が自分には伝わっていなかった。   | 回収品目を拡大した際には、区報やホームページ、チラシ、啓発紙等に加え、SNS や区設掲示板などを利用することで、より多くの区民の目に留まるよう周知を行っていきます。  |
| 9   | 地域活動団体等との連携 | 町会は、救命や防災、交通安全などの活動で実績がある。リサイクルのことも町会を通じて発信できないか。年配者には町会経由が浸透しやすいのでは。            | 分別方法が大きく変わった際には町会を回って説明するなど、ご協力をいただいております。<br>今後も Bunkyo ごみダイエツト通信の配布や集団回収事業等を通じて、町会・自治会と連携した周知活動を展開していきます。   |
| 10  | 事業者との連携     | 新聞販売店が独自に回収袋を配布しており利用者も多いと考えられるが、そういったネットワークを活用するなど、区は企業とも協力すべき。                 | 新聞販売店やスーパーの店頭回収など、事業者が自主的に行っている回収については、ぜひ区民に利用していただきたいと考えております。<br>また、区ではリサイクル推進協力店の認定・PR などを行うことで、ごみ減量や 3R の推進について事業者と連携を図っています。   |
| 11  | 資源回収の拡充     | 雑がみを紙袋で出すのが禁止になった。一部の心無い人のために便利な出し方を禁止してよいのか。                                    | 紙袋を禁止しているわけではありませんので、紙袋で出された場合も回収は行っておりますが、雑がみ以外のものが混入していないことが外から見えるよう、原則としてひもでしばって出していただくことを推奨しています。   |
| 12  | 資源回収の拡充     | 拠点回収の場を増やせないか。   | 身近な区民施設等の敷地で、日時を定めて資源を回収できるような、移動回収拠点を検討しています。  |
| 13  | 情報の公開       | ごみがこれだけ減ると経費がこれくらい下がるなど、効果をお金で示すと分かりやすい。   | リサイクル清掃事業の経費については事業概要や Bunkyo ごみダイエツト通信を通じてお知らせしています。また、例えば生ごみの水分を絞るだけでもごみ処理費用が節約できることなど、講座等を通じて啓発しています。  |